

教育学部大久保農場収穫祭のご報告

大久保農場主任 荒木祐二
(技術教育講座)



収穫祭のようす

埼玉大学教育学部大久保第1農場にて、11月16日(金)に技術教育講座の「栽培技術の基礎(実習を主とする)」受講生一同ならびに大久保農場の主催による収穫祭が開催されました。

当日はやや冷え込みましたが、大学から池原理事、西田副学長、八木副学長、財務部の本田氏、佐々木氏、教育学部から齊藤学部長、山口先生(総教)、山田先生(総教)、薄井先生(国語)、清水先生(心理)、山本先生(技術)、荻窪先生(技術)、戸田支援室事務長、荒井事務長代理がご参加くださいました。さらには、さいたま市長政務秘書の高塚氏も駆けつけてくださり、公務が重なりご欠席された清水市長からのメッセージを頂戴しました。

司会は技術専修1年生の鶴久森君が務め、はじめに農場主任である筆者の挨拶、池原理事のご挨拶、さいたま市長のメッセージ紹介がありました。池原理事からは、「教育学部に農場があること、ならびに第2農場の活用も進んでいることを認知できた。学生の皆さんには、農業体験をもとに国際的な視野をもった教員になってほしい。」というご挨拶を賜りました。続いて、西田副学長による乾杯の音頭の下、宴会が始まりました。

歓談の間には、八木副学長、齊藤学部長、ならびに戸田事務長からご挨拶いただきました。また、農場講義室内のプロジェクターを利用して、浅子先生より栽培実習のようすが上映されました。受講生たちは、スクリーンに映し出される自分たちの姿を見て互いに笑ったり、そよかぜ保育室のイモ掘りの映像を見て「かわいい」と歓声をあげたりしていました。その後、受講生によるクイズや一発芸の余興があり、会場は大いに盛り上がりました。最後に、全員で埼玉大学歌を斉唱し、山口先生による「農場が取り壊される話が出ていたが何とか食い止めてきた。土に触れたり、泥にまみれたりする経験はとても重要。第2農場も含めて有効活用を図ってほしい。」という中締めのご挨拶をもってお開きとなりました。

私が収穫祭を企画するのは今年で二回目になります。この収穫祭が、大久保農場の運営に携わる皆様と受講生らと交流を深めるかけがえのない存在であることを再認識しました。これからも、30年以上の歴史あるこの大久保農場収穫祭を大切に引き継いでいきたいと感じています。今後とも大久保農場の活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。大久保第1農場は国際交流会館の裏にございます。皆様どうぞお気軽にお越しください。



清水市長からのメッセージ

2012年収穫祭を終えて

岸野雅之（技術専修1年生）



料理を配るようす

場のダイコンが入ったおでんや豚汁、栽培実習で自分たちが苗から育てた米のおにぎりをつくりました。薪や炭を使った火起こしや加熱で苦労しましたが、結果的に美味しくできてよかったです。

これまでの農場実習を通して、私たちは栽培について様々なことを学んできました。大学正門の花壇へ花を植えたり、大久保農場でサツマイモやトマト、ナス、ピーマン、スイカ、ラッカセイなどの多くの作物を育てていくうちに、作物に対する考えが変わっていきました。作物をしっかりと「育てる」ためには管理が大変であることがわかり、今まではなんとなく済ませていた食事も、食材や味などに興味を持つようになりました。今回の収穫祭で、自分たちが育ててきた作物を食べたことは新鮮で貴重な体験となりました。それと同時に、提供する側の喜びも学ぶことができました。自分でつくった作物を食べていただくという思いで心をこめて調理しているうちに、特別な感情が生まれ、その料理を来賓の方々や先輩たちが美味しそうに食べる姿をみて次第に嬉しい気持ちになりました。

また、普段の大学生活ではなかなかお会いできない方々とお話できたことはとてもいい刺激になりました。学部長先生に「次回の収穫祭にも呼んでいただけたら幸いです」と感謝のお言葉をいただいたときは、嬉しくなって自然に笑みが溢れました。今回の収穫祭のように、収穫したものを囲みながら多くの人と関わることは素晴らしいことだと感じました。ただ単に食事をとるだけでなく、食べ物をいただくことに感謝しながら相手との会話を楽しみ、お互いの時間を共有する機会が大学の中でもっと増えていけばいいなと思いました。この収穫祭の経験を糧に、今後の大学生活をさらに充実したものにしていきたいです。来年の収穫祭も、次の受講生たちが中心となって成功させてくれることを願っています。



余興のようす